

考古資料館に行ってみよう3 東寺の瓦は語る

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

律子さんと令くん 自由研究決めた？とりあえず、京都市考古資料館に行ってから考えることにしましょう。

律子さん あら、平安時代前期の軒丸瓦や軒平瓦（屋根の軒先の紋様の付いた飾瓦）と、本に載っていた東寺の鎌倉時代の軒瓦の紋様がそっくり！どうして？「教えて瓦先生！」

〔瓦大好き先生、現れる。〕

瓦先生 いい所に気が付いたね。写真1と写真2の軒瓦は紋様がもの凄く似ていて大きさも同じで、拓本でも見分けがつきにくいんだ。だけど、実は瓦が作られた時代や生産地も違うんだよ。

令くん どうして、そんなことが分かるんですか？

瓦先生 つい最近まで、研究者でも共に平安時代前期の瓦と考えてたんだよ。でも、詳しく調べると、写真1の瓦は京都で作られた東寺創建時の瓦、写真2の瓦は兵庫県で作られた鎌倉時代初めの東寺修理時の瓦であることが分かったんだ。両方の軒瓦は、作り方や使用した粘土や焼き方も異なっている。よく見てごらん。色が違うのがわかるだろう。

それは、兵庫県内の考古学者らによって、明石市林崎三本松窯などで出土した軒瓦と東寺出土の軒瓦が同じ紋様型（はんがた范型）で作られ



写真1 平安時代前期の軒丸瓦・軒平瓦（東寺出土と同紋様の瓦）



写真2 東寺出土 鎌倉時代の軒丸瓦・軒平瓦

たことをつきとめたんだ。作り方なども東播磨地域の平安時代から鎌倉時代の瓦と似ているんだ。明石で造った瓦が、はるばる東寺に運ばれたんだね。

律子さん 時代はどうしてわかるんですか？

瓦先生 林崎三本松窯では、瓦と一緒に焼いた須恵器の年代から分かったんだ。また、東寺の発掘調査で鎌倉時代に再建・修理された建物の周りから、これらの瓦が出土したことから裏付けられたよ。

令くん 東寺創建時の瓦は、リーフレット京都No.71「東寺と西寺」には、平安京周辺で造っていたと書いてあったよ。修理の時も地元で造ったら楽なのに、わざわざ遠くから？

瓦先生 いい質問だね。東寺は、平安時代の終わりに荒廃していたんだ。そこで、『平家物語』に登場する文覚ぶんかくという僧侶が、文治5年(1189)頃から東寺修理に取り掛か

るんだ。まず、後白河法皇に訴えて修理責任者になるんだ。ところがなかなかうまくいかないで、今度は源頼朝に働き掛けるんだ。建久3年(1192)から建久9年(1198)までの約7年間で、金堂・講堂の仏像・五重塔・八幡社・築地と諸門などを再建・修理した。つまり当時の2大権力者がお金を出して修理を進めたわけさ。

当初は後白河法皇ごしろくこうの分国である播磨国が東寺に与えられ、その収入が修理に当てられたが、その後播磨国を知行国ちぎょうこくとして文覚が支配し、修理経費を出したんだ。これらの国は、お金だけでなく資材を負担する場合も多く、播磨産瓦の供給もこのような事情によるんだ。

律子さん 鎌倉時代の瓦と平安時代の瓦が、なぜ同じ大きさ・紋様なんですか？

瓦先生 文覚は修理に当たって、前例を重視した保守的な傾向が強くて、瓦の紋様にも強くこだわったに違いない。紋様は400年前の平

安時代前期の軒瓦を極めて忠実にコピーし、現物又は下絵などを手本にして范型を作ったと考えられるんだ。このため私たちもすつかりだまされたんだ。アハハハ！

また、鎌倉時代の修理では、創建時の伽藍配置や建物規模なども受け継いだんだ。そのため、現在の東寺は、建物スタイルは平安時代と異なるが、境内の配置や規模はほぼ同じだよ。

令くん そうなんだー！だから東寺は、平安時代の建物は全く残っていないけれども、平安時代の雰囲気を残しているお寺と言われるんですね。

瓦先生 鎌倉時代の瓦が、実際に屋根に葺いてあるのを見たくないかい？

律子さんと令くん はい！見てみたいです。瓦先生、連れてって！

[3人そろって、考古資料館から東寺の北総門を見に行く。]

瓦先生 門の南側屋根の軒平瓦のうち、暗い灰色の瓦が鎌倉時代のものなんだ。

律子さん 北総門は、たびたび修理されているけど、瓦は約800年間再利用されてきたんですね。そんな貴重な瓦が葺いてあるなんて感動しました。瓦から色々なことが分かるんですね。

瓦先生 瓦以外のことも合わせて調べると、さらに考古学の楽しみが広がるよ。

律子さんと令くん やったね！これで自由研究は決まりです。お話、面白かったです！瓦先生、ありがとうございました。



写真3 東寺北総門の南側屋根
軒平瓦に鎌倉時代の瓦も使用されている。(イラスト：上村和直)

(上村和直)